



1.「みんなの夢が叶いますように」の掛け声で色とりどりの風船が放たれた / 2.50周年を祝う太鼓の音色が霊山にこだまする / 3.サプライズで登場した子どもたちが、ダンスを披露し会場を沸かせた / 4.「ママの手に何を描こうかな？」フェイスペイントのワークショップを楽しむ親子

「こどもと一緒に半世紀」

7月30日㊤、青空の下、霊山こどもの村で開園50周年記念式典が開かれました。霊山こどもの村は昭和47年に開園し、平成6年には「遊びと学びのミュージアム」がオープン。これまでに延べ300万人が訪れました。式典で須田市長は「子どもから大人まで全ての世代が集い、楽しさを共有できる施設にしていきたい。」とあいさつ。その後、来場者に風船が配られ、子どもたちの夢とともに一斉に空へと放たれました。家族で遊びに来た上保原小3年の菊地永真くんは「お空にたくさんの風船が浮かんできた時がきれいでした。」とうれしそうに話していました。



市長コラム 第45回

「対面での再会にあふれる笑顔」

須田 博行

去る8月14日、伊達市ふるさと会館で「伊達市令和3年成人者交流会」が開催されました。

新型コロナウイルスの影響でオンライン開催となってしまった令和3年成人式。コロナ禍とはいえ、自分たちの時だけ対面で実施できなかったことにとても悔しい思いをしたと思います。私としても本当に申し訳なかったと思っています。

その後、皆さんから「対面で交流できる場を設けられないか」という要望を多数いただきました。市としても何とかその思いに応えたいと考える中、実行委員の皆さんが開催に向け行動されました。

開催までにはさまざまな手続や準備があります。その中で思い悩んだこともたくさんあったと思います。でもその頑張りがこの日の素晴らしい交流会に結びついたと思っています。

主催者あいさつの中で渡邊実行委員長からは「成人としての

自覚を持ち、旧友たちと再会を

喜び合う本来の成人式ができた。市や実行委員の皆さんの協力に感謝したい」との言葉がありました。市としてもできる限りの応援をしようと始まったのですが、委員長の言葉に「申し訳ない思い」を少し楽にしてもらいました。逆に、自ら行動していただいた成人者の皆さんに感謝しています。

翌日の新聞には笑顔あふれる集合写真が掲載されていました。久々の再会の喜びと、自分たちの成人式を創ったという自信に満ちた大人の顔でした。

これからもぜひ、積極的に自分の意見を伝え、行動し、そして若い力で新しい時代を築くという意識を持ち続けていただきたいと思います。

限らない可能性を持つ皆さんの前途に栄えあらんことを心から祈ります。本当におめでとう！